

倫理審査申請書

平成 23年 12月 14 日

川崎医科大学・同附属病院
倫理委員会委員長 殿

申請者 (主任研究者)
所属 川崎医科大学附属川崎病院
看護部 東5階病棟
職名 看護師
受講番号 第11-0750号
氏名 山中裕美子 印

※受付番号 _____

所属長氏名	新 美保恵 印
-------	---------

1 審査対象：	実施計画
2 審査区分：	A. 疫学研究 B. 観察研究 C. 介入研究 (侵襲無) D. 介入研究 (侵襲有) E. ヒトゲノム・遺伝子解析研究 F. ヒト幹細胞研究 G. 遺伝子治療 H. 幹細胞治療 I. その他 (面接調査)
3 厚生労働省未承認の試薬・機器・その他の使用：	する ・ <u>しない</u>
4 課題名：	勤務交代時の申し送りにおける情報伝達の不十分を引き起こす要因
5 主任研究者：	所属 川崎医科大学附属川崎病院 看護部 東5階病棟 看護主任 氏名 山中裕美子
6 分担研究者：	所属 職 氏名
7 研究等の概要：	勤務交代時の申し送りにおいて、伝えた情報が伝えた通り伝わらなかったり、申し送ったはずの内容が共有できていなかったりするのは何故なのだろうと疑問を感じた。今回、勤務交代時の申し送りにポイントを絞り、当院で実際に経験をした事例を通して分析、情報伝達の不十分を引き起こす要因が何かを明らかにしたい。そして情報が伝えた通り伝わってなかったり、申し送ったはずの内容が共有出来ていなかったと後で気づく状況を改善するために何が必要かを分析し今後を活かしたい。
8 研究等の対象、実施場所、実施期間：	・対象 川崎医科大学附属 川崎病院 病棟看護師 5～10名 (リーダー役割が理解できる経験年数5年以上の看護師) ・実施場所 川崎医科大学附属 川崎病院 ・実施期間 倫理委員会承認日より平成24年1月

- 注意事項
1. 申請書、研究実施計画書を2部添付してください。
 2. 研究実施計画書は、別添の「研究実施計画書作成要領」に従って作成のうえ、本申請書に添付して提出してください。参考資料は必要最小限にし、必ずページ番号を付ける。他の機関で作成した書類をそのまま用いることは、原則として不可。
 3. ※印は記入しないでください。

9 研究等における医学倫理的配慮について

((1)~(3)は必ず記入のこと)

(1) 研究等の対象とする個人の人権擁護

本研究の主旨を説明し、協力の得られた看護師を対象とする。調査開始時、文書及び口頭で説明を行い、同意を得る。録音は参加者の同意のもと行い、研究によって得られたデータは、個人が特定されないよう全てコード化し分析する。研究者が研究期間中のデータ取り扱いに細心の注意を払い、データの保管を川崎医科大学附属川崎病院看護師大西真由美が担当、パスワード管理し鍵付きの棚に保管するものとする。また、看護管理室のパソコンを使用し院外に持ち出さない。インタビューデータは、報告書及び論文作成のために利用し、他の目的のためには利用しない。必要な情報を収集・整理した後、研究者が責任を持って全て消去・破棄する。インタビューの場所を確保し、他人に聞こえないよう配慮する。研究協力者は、自由意思で参加または不参加を選択できる。また、いつでも同意の撤回ができる。同意の撤回があった場合には即座に中止し、結果は破棄する。さらには、たとえ研究に参加していなくても、あるいは途中で参加を中止したとしてもなんら不利な取り扱いを受けない旨をあわせて説明する。

(2) 研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

研究者が川崎医科大学附属川崎病院病棟勤務看護師(リーダー役割が理解できる経験年数5年以上の看護師)に本研究の主旨を説明し、文書及び口頭で説明を行い、インタビュー内容の録音やメモを取ることを含め同意を得る。研究協力者は、自由意思で参加または不参加を選択できる。また、いつでも同意の撤回ができる。さらには、たとえ研究に参加していなくても、あるいは途中で参加を中止したとしてもなんら不利な取り扱いを受けない旨をあわせて説明する。

(3) 研究等によって生ずる個人への不利益並びに危険性に対する配慮

本研究の主旨を説明し、文書及び口頭で説明を行い、インタビュー内容の録音やメモを取ることを含め同意を得る。研究協力者は、自由意思で参加または不参加を選択できる。また、いつでも同意の撤回ができる。さらには、たとえ研究に参加していなくても、あるいは途中で参加を中止したとしてもなんら不利な取り扱いを受けない旨をあわせて説明する。

インタビューは、勤務時間外に行うため、個人の時間となり協力者の負担となる可能性があるため、心身ともに苦痛にならないように負担をできるだけ軽減できるよう調整する。得られた結果は厳重に保管する。

(4) そ の 他

・ 結果の開示 :

研究者は、放送大学(生活と福祉専攻)の学生である。本研究は、放送大学(生活と福祉専攻)の卒業研究であり得られた結果は、放送大学に卒業研究として提出予定である。

・ スーパーバイザー : 岡山大学大学院保健学研究科看護学分野 基礎看護学領域 兵藤好美 准教授
スーパーバイザーの指導のもと研究を行っている。

・ 利益相反 : 本研究に関する利益相反はない。

・ 金銭的負担、研究資金、謝礼等はない。